



空港での大歓迎



イエローストン国立公園 (真夏にまさかの13℃！)



ラグーン遊園地



ハロウィーンの“Trick or treat!”を体験



記念品交換

村の学生訪問団が 姉妹都市・米国 アイダホフォールズ市を 訪問しました！



市庁舎の前でキャスパー市長と

【行程】

7月23日	出発…デンバー(コロラド州)を経由し、現地時間夕方アイダホフォールズ市へ到着
24日	アーティトリウム(科学技術とアート を融合させたユニークな施設)見学、 アイダホフォールズ動物園で オリエンテーリング、歓迎会
25・26日	ファミリーデー (各自ホストファミリーと過ごす)
27日	イエローストン国立公園見学
28日	市長を表敬訪問、 警察署・先進エネルギー研究 センター(CAES)見学
29日	ラグーン遊園地
30日	アメリカの伝統的なゲーム、ロデオ観賞
31日	舟遊び(水鉄砲合戦)
8月1日	ファミリーデー
2日	イースターやハロウィーン、クリスマスなどの 伝統行事を体験しながら送別会
3・4日	帰国…デンバー(コロラド州)を経由し、 日本時間夕方成田空港へ到着



アメリカの文化や習慣に
触れて、みんな良い経験
ができたかな？ たくさん
友達はできたかな？

姉妹都市交流マスコット
アイボくん



【訪問団員】

高等学校	3年	女子	1人
	2年	女子	3人
	1年	男子	1人
		女子	2人
	計		7人
中学校	3年	男子	2人
	2年	男子	2人
		女子	3人
	1年	女子	1人
	計		8人
引率者			4人
合計			19人



先進エネルギー研究センターで先端テクノロジーを体感！



サプライズのバースデーケーキ！



ロデオでカウガールとパチリ



舟遊びで水鉄砲合戦



キャスパー市長の前でスピーチ

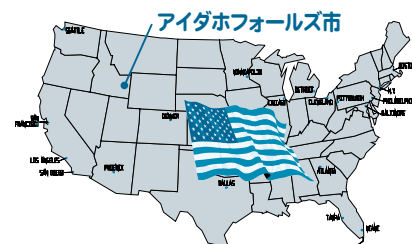


警察署で指紋分析



東海村と米国アイダホ州アイダホフォールズ市は、昭和56年に国際親善姉妹都市の盟約を締結して以来、現在までに延べ約980人が相互に親善訪問や学生のホームステイを実施するなど、30年以上にわたり交流を続けてきました。今回は、本村から第16回目となる学生訪問団がアイダホフォールズ市を訪問し、現地でたくさんの方々と交流し、親交を深めました。

【問い合わせ】 まちづくり推進課原子力サイエンス・国際化担当(☎282-1711 内線1343)、東海村国際センター(姉妹都市交流会館内 ☎282-0535(午後5時～9時))



姉妹都市交流のシンボル「フレンドシップガーデン」(inアイダホフォールズ市)

アイダホフォールズ市の中心地を流れるスネーク川。その中にある島に造られた「フレンドシップガーデン」(友情庭園)は、同市と東海村の姉妹都市交流のシンボルとなっている日本庭園です。これまでに250人以上のボランティアが1万時間以上をかけて整備し、2014年にはプロジェクトリーダーであるジュディ・セイデルさんに対し、ナショナル・ガーデン・クラブ(全米庭園クラブ)の優秀賞が贈られました。

庭園内には、東海村から寄贈された石灯籠をはじめ、飛び石のある池や和風様式の門が配置されています。可能な限り日本的な草花や樹木の植栽を配しており、日本的な情緒を楽しめる憩いの場として市民に親しまれています。現在、庭園の一面に日本風あずまや「ムーンパビリオン」の建設が進められています(写真右下)。このパビリオンについても多くのボランティアの方々が献身的に作業を進めており、現在は屋根がほぼ完成し、内部の工事を進めているところです。

●一方、東海村でも…

今年で村発足60周年を迎えることから、その記念事業として、姉妹都市交流の新たなシンボルとなる「(仮称)フレンドシップパーク」の開設を予定しています。これは、姉妹都市交流会館脇の西部公共用地に整備され、今年10月のアイダホフォールズ市一般訪問団の来日に合わせてプレオープンセレモニーを開催する予定です。アイダホフォールズ市と東海村の両市村に新たな友情のシンボルがつけられ、今後もますます親交が深まり、さらなる友好関係が築かれていくことが期待されます。



アイダホはとうとうたつた？
訪問団員に感想を聞いてみたよ。
次のページを見てね！

姉妹都市交流マスコット さくらちゃん



訪問団学生代表 川又 可奈

私は、今回、学生訪問団としてアイダホフォールズ市を訪問し、たくさんの新しい経験や貴重な体験をすることができました。

昨年、私は姉妹都市交流活動ユースグループに参加し、学生訪問団があることを知りました。活動の中でさまざまな人とふれあうちに、アイダホに行ってみたいと思い、今回の訪問団に応募しました。訪問団で行けることが決まってから出発するまで、行ってからのことを毎日考えていて、飛行機の中でもとてもワクワクしていました。

アイダホフォールズ空港に着くと、ホストファミリーが、私の名前を大きく書いたボードを持って笑顔で迎えてくれて、とてもうれしかったです。ホストファミリーと行ったCraters of the Moon国立公園では、火山跡の洞窟に入ることができました。丘に登ると、辺りが全て見渡せました。空気が澄んでいてとてもきれいでした。また、訪問団のみんなと行ったイエローストン国立公園も、とてもきれいで感動しました。他にも、ロデオを見たり、舟遊びをしたり、アメリカ伝統行事の体験をしたりと、日本ではできないことをたくさん経験することができました。食べ物や街の風景、家の中や外観等、日本には分からないアメリカの日常文化に触れることができて、夢のようでした。

一日中英語の毎日で、初めはとても不安でしたが、だんだんと慣れて、英語を聞いたり、話したりするのが好きになりました。バスの移動中には、アメリカ人の友達もできました。

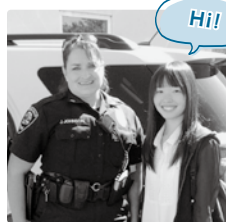
私がこんな充実した2週間を過ごせたのは、ホストファミリーのおかげだと思っています。本当にすてきな方々に巡り合うことができて良かったです。今回お世話になったアイダホフォールズ市の皆さんと東海村国際センターの皆さん、本当にありがとうございました。将来この経験を生かしていけるよう、頑張りたいと思います。



▶左から2番目が川又さん

訪問団学生副代表 潘 恵

13日間、言葉や文化、環境など何もかも違った国に滞在するということは、私にとって喜び3割、不安が7割でした。しかし、実際に現地の空港に着くと、私を見つけて笑顔になるホストファミリー。その瞬間に緊張がほぐれたような気がしました。



家の中で日本人は自分だけ、これからの話し相手は全員アメリカ人——。この環境が私に「英語を使ってコミュニケーションをとりたい!」と前向きな気持ちにさせてくれたのだと思います。例えば、「なんちゃって」という英語を「口の中に蜂が入った!」と冗談を言った後に使ってみたら、次女のレクシーが大笑いしてくれたこと。家族全員が集まった夕食の時間に、日本食の肉じゃがを作ると、みんな「おいしい!」と言ってお鍋をすぐに空っぽにしてくれたこと。

この長いようで短かったアイダホでのホームステイは、世界観が変わるような貴重な経験をさせてくれました。私にこのような素晴らしい機会を与えてくれた両親、東海村国際センター、役場、ホストファミリーや友達、携わってくれた全ての方々に深く感謝し、今回学んだことを忘れず、今後に生かしていきたいと思います。

訪問団学生副代表 武石 拓歩

今回、アイダホに行ってみようと思ったきっかけは、以前にアイダホに行った人の話や、親からの勧めを受けて、自分も日本とは違った文化の国での生活を体験してみたいと思ったからです。

実際、Weinrich家にホームステイしてみると、日本では考えられないほど、友人や恋人たちと家族ぐるみで仲良くしていました。また、スーパーに買い物に行ったときは、食料品だけではなく、衣服やテレビゲーム、玩具や刃物類まで売っているところを見て、日本のスーパーとの違いに驚き、文化の違いがよく分かりました。さらに、ドライブに行ったときは、1車線ごとに1つの信号があることに驚きました。

しばらく生活するうちに、僕は、Weinrich家になじんで、仲良くなっていました。Christianとは、ロッククライミングに行ったり、一緒にパズルをしたりしました。Nickとは、ゲームをしたり、アニメを見たりしました。短い間でしたが、アイダホで良い経験ができたと思います。

この東海村とアイダホの姉妹都市の関係がいつまでも続いてくれることを願っています。また、今回の体験をきっかけに、今後も外国の文化に触れて、外国での生活を楽しまてみたいと思いました。最後に、僕の夢であった、アメリカの和太鼓チームとの演奏ができて感謝しています。次回は東海村で、一緒に練習や演奏をしたいと思っています。ありがとうございました。

